



## やっと涼しくなりました



食欲の秋がやってきた。

ジョイキッズプラザの子どもたちは、毎日の「補食」を楽しみにしている。「今日はサラダパンだった。おいしかった」と笑顔でおしえてくれる。うどんやチャーハン、餃子、たこ焼き、どんぶりなどメニューは豊富。しっかり食べて、しっかり学び、しっかり遊び、子どもたちは元気です。

### つぶやき

ジョイキッズプラザの子どもたちの本棚に、20年前に発行された「世界がもし100人の村だったら」という本がある。当時は話題になって、1カ月もたたないうちに版を重ねた。その内容は表題にあるように、世界（人口は当時、63億人。現在は77億人）を100人の村に縮めると、どんなふうになるのか、そこから何が見えてくるのかという問いかけになっている。

村には48人の男と52人の女が暮らしている。30人が子どもで、70人が大人。大人の7人が老人である。

今世界で問題になっている人種差別。有色人種が70人、白人が30人である。（61人がアジア人、13人がアフリカ人、南北アメリカ人も13人、12人がヨーロッパ人で、あとは南太平洋地域の人々）33人がキリスト教徒で、19人がイスラム教徒。続いてヒンドゥー教徒が13人、仏教徒が6人で、他の宗教あるいは無宗教の人が24人、自然崇拝が5人である。中国語を話す人が17人、英語が9人、8人がヒンディー語とウルドゥー語、6人がスペイン語でロシア語も6人。4人がアラビア語で、あとの半分が日本語、ドイツ語、フランス語、インドネシア語、ポルトガル語、ベンガル語などを話しているが、14人は字が読めない。

暮らしぶりは、75人が食べ物、住居に恵まれている（預金のある人が8人、車のある人は7人で、2人がコンピューターを持っている）が、25人はそうではない。中でも17人は安全な水さえ飲めない状態である。

この本に目を通し、あらためて、子どもたちが毎日元気に頑張っていることのありがたさを感じ、4年生が、金子みすゞの「みんなちがって、みんないい」を元気に音読するのを聞きながら、世界の人々が、それぞれの「ちがいを認めながら、みんなが幸せになれるようにと願いました。（清田）



### お知らせ

昨年、子どもたちに好評だった「ハロウィン（10月31日）」のお祭り。今年も、飾り付けや、ゲームなど、楽しい催しにしようと計画しています。Trick or treat!

発行日 2020年10月1日  
発行 ジョイキッズプラザ  
発行責任者 奥村正則

地域での子どもたちへの健全な育成に貢献する。

**キムラスクエアガーデン**